



社会福祉法人

蒼溪通信

第10号

2019年
6月1日

ゆめ ひら
～未来を拓く社会参加を～



題名：「あじさい」 作者：杉山克己

平成から令和へと年号が変わる中、蒼溪会も新年度を迎えました。

新しいスタッフや事業所間での異動など、各事業所新体制になり、色々と変化の多い時期ではありますが、「希望」を感じながら努めています。

令和天皇は126代目の天皇であるとのこと。そのような長い歴史にはかないませんが、当法人も30周年、50周年・・・と地域で必要とされる法人になっていきますよう、日々精進していきたいと思います。

今年度もよろしくお願い申し上げます。

山梨県立あゆみの家 施設長 渡邊充恵

特 集

2019年度 4月 新入職員紹介

蒼溪会には6名の職員が仲間に加わりました。
新たな取り組みがスタートする今年度、
新入職員の皆さんと力を合わせて、
さらに力強く前進していきたいと思ひます。



ケール

横田 優太郎

皆様と楽しく日々を過ごせていけたらと思ひます。宜しくお願ひします。



ケール

市川 恵美子

メンバーの皆様と笑顔で日々心穏やかに過ごしていきたいと思ひます。職員の方々共、仲良くしていきたいので顔を見掛けたらぜひ声を掛けて下さい。



カマラド

藤田 圭子

8年振りに山梨に戻ってきました。メンバーの皆様のお気持ちに思いを巡らせながら、共に歩んでいきたいと思ひます。



カマラド

依田 真由美

「まあいい心で まあいい笑顔で まあいい言葉で」が大好きです!! よろしくお願ひします。



あゆみの家

馬場 愛美

初めての職で不安ですが、皆様と楽しく過ごしていきたいです!



あゆみの家

河西 幸美

初めてのことでばかりで、ピースタッフとしてがんばりたいと思ひます。

特 集

時代のターニングポイントを迎えて

から令和へ。年号が変わった今年度、新規に6名の職員を迎えて今年度もスタートをき
ができました。

長になって初めて新年度を迎え、4月1日の辞令交付式では職員全体に3つのお願いを
を。まず1つ目が「本当の主体性」を考えてほしいこと。私たちが支援しているのは、
ある利用者だけではなく、利用者をとおし、ご家族や社会に貢献できる支援をしてい
2つ目が「良い空気感」をつくっていくこと。利用者が安心でき、職員が前のめりで
いける空気感を、各事業所の施設長を中心に作ってほしいこと。最後に「仕事
をすること。恋をしているときは、時間がかかったり、手間がかかることに夢中にな
手を喜ばせようとしませんか。どうか蒼溪会の仕事に恋をして、時間や手間を惜しま
しく働いてほしいことを伝えました。

【事業計画】

会福祉法人蒼溪会の今年度の事業計画は、（1）法人の経営改革、（2）地域創り、
人財育成を3本柱とし経営をおこなっていきます。

法人の経営改革

法人経営の明確化を図る。

中支援型グループホームの開設準備。

労事業の役割・機能の明確化。

地域創り

期入院されている精神障害者の地域移行支援を積極的に取り組む。

域生活支援拠点整備事業にむけた相談支援体制整備への協力。

域イベントへの参加・交流。

人財育成

職員全員が、より良い支援を求めて自己研鑽に励む環境をつくる。

職員の満足調査を実施し、働きやすい環境にしていく。

年度事業計画を作成する上で意識した

法人事業計画→事業所事業計画→



就労継続支援B型事業所 ケール

サーカス&いちご狩り

3/6にサーカスといちご狩りに分かれレクレーションに行ってきました。

ラザウォークで開催されていたポップサーカスに無料招待をして頂き、初めてサーカスを見る方もいて楽しんでいました。お昼はフードコートでラーメンやうどん等好きな物を食べ、満足していました。



いちご狩りは昭和町(みない)いちご園へ行き、昼食後でしたが最高50個食べた方もいました。久しぶりのいちご狩りで皆さん楽しかったようです。

新施設長就任

ケール施設長

清水 雄一



桜満開の春らしいこの4月、ケールの施設長に就任しました。創立23年を迎え、メンバーと共に就労(働く)意欲の向上と地域に根付いた事業所で今後もあり続けると共に、蒼溪会の理念にある「

利用者の人格を尊重。個々のニーズにこたえる・自立した社会生活」キーワードの実現に向け職員一同が切磋琢磨して支援できるように盛り上げていきます。

就労支援センター サヴァ

3月8日 静岡日帰り旅行に 行きました！！

天気は快晴、車内は「お寿司は何を食べようか」「イチゴ狩りが楽しみ」など会話に花が咲き、静岡に向け既に大盛り上がり。

海が見えた瞬間「おーっ！」と歓声があがり、皆さん青く広大な海に目を輝かせていました。

東海大学海洋博物館では、深海魚で有名なリュウグウノツカイの標本があり、胴体が長く特徴的な姿に驚きました。

ランチはエスパルスドリームプラザでお寿司の食べ放題。定番ネタは勿論、イクラやウニの軍艦巻きやカニの食べ放題もあり、海の幸を堪能しました。

最後に久能山でイチゴ狩り。お寿司でお腹一杯の皆さんでしたが、イチゴは別腹。匂真っただ中のイチゴは頬っぺたが落ちそうなほど甘くてとても美味しかったです。

新センター長就任

センター長

水地 一城



平成31年度からサヴァセンター長に異動となりました水地です。メンバーひとりひとりのニーズ・ペースに合わせた仕事を提供することで、日中活動に対する意欲の向上に取り組んでいきたいと考えています。

今後とも宜しくお願ひ致します。



山梨県立あゆみの家

～夕食作りが始まりました～

あゆみの家では毎週火曜日に夕食を作っています。メンバーの意見も取り入れながら、バランスのとれたメニューにしています。メンバーからはとても美味しいと評判です。

美味しそう
^)o(^



新施設長就任

山梨県立あゆみの家
渡邊 充恵



今年度4月から、あゆみの家の施設長になりました、渡邊充恵と申します。

社会的入院の解消になることや、現在地域で暮らしている方の生活の見つめ直す時期など、様々な方に利用して頂けるよう、努めていきたいと思えます。

よろしくお願ひ申し上げます。

～3月20日「ひとねっこ」アート展・すたみな太郎に行ってきました～

あゆみの家では3月20日、「ひとねっこ」アート展を見に行きました。いろいろな施設の方の作品を熱心に見ているメンバーの姿がありました。あゆみの家からは4名のメンバーの作品が展示され、自分の作品の前で写真を笑顔で撮りました。

ひとねっこアート展の後は、メンバーがお気に入りのすたみな太郎での食事でした。皆、ほっぺがはち切れそうなほどほおぼっていました。



自分の作品の前で写真撮影



すたみな美味い、満喫(^^)



楽しく鑑賞、良い作品いっぱい♡



ライフサポート ラヴィ

ヨガ体操始まりました

4月より、ヨガの青沼先生をお迎えして月1回のプログラム【ヨガ体操】が始まりました。メンバーにとっては初めてのヨガ体操ですが、どこまでついていけるか？果たして興味を持っていただく事はできるか？と最初は職員も少々不安でした。始まってみると椅子に座り楽な姿勢で行えたこともあって、皆さん積極的に参加されていました。職員もメンバーと一緒に張り切ってヨガ体操を頑張りました♪

少しずつ無理なく楽しみながら続けていければと思います。



青沼先生



まずは先生をよ〜く見て、下を向くんですね？



頭を軽くグリグリとほぐすのか、こんな感じ？

最近のトピックス

【大きな車が仲間入り♪】

軽自動車からステップワゴンに代わり、送迎や外出の時も皆さんゆったり乗れて喜んでいきます。外食や温泉など、みんなで一緒に外出できる機会も増えていきます。低床タイプで高い段差が苦手な人も乗りやすい様に配慮しました。



【苗植え🌱】

今年はプランターで野菜作りとグリーンカーテンに挑戦です！土を混ぜるところから始めて、皆さん一所懸命作業しました。



きゅうり・なす・ゴーヤ・アサガオ・トマトなど、たくさん植えました。あと少し増える予定なのでラヴィの庭も賑やかになりそうです。
(*^^*)

毎日の水やりも忘れずおこない、まだ弱い苗には風よけ霜よけのビニールも張りました。

皆で植えた野菜や花たちがこれからどんなふうになっていくのか楽しみです♪



相談支援センターカマラド

「南アルプス市障害者相談支援センターとは」

4月某日、我々取材班は新たに赴任したカマラドの鹿山氏にインタビューを敢行。

基幹相談としての役割は地域の相談の拠点として総合的な障害者相談業務を行いながら、権利擁護対応や長期入院者等の地域移行・定着の推進、また地域の相談支援体制の強化事業を展開しています。また委託相談として障害者手帳の有る無しに関わりなく相談に応じ、皆さんが住み慣れた地域で安心して暮らせるお手伝いをしております。

日々、様々な困り事を抱えた方からの相談や計画相談担当者からの相談も寄せられ、業務としてはとても大変な職場です。しかし、誰もが普通に暮らせるような日がいつかきたらいいなと思いながら、毎日の業務に向き合っています。



グループホーム

カマラドに新しい仲間が増えました！

3月よりグループホームカマラドに藤巻政登さんが入居しました。

藤巻さんは2月まであゆみの家に入所しており、自立訓練を終了しカマラドに来ています。週4日ケールで働き、週1日ラヴィに通所しています。生活が変わり、生活の様子や心境の変化などをインタビューしました！

Q グループホームに移って心境の変化はありますか？

A 静かでいいです。土日の過ごし方がもう少しあればいいです。
世話人さんが手伝ってくれて助かっています。

Q グループホームでの楽しみは何ですか？

A 買い物に行くことと食べることです。

Q ケールではどんな仕事をしていますか？

また、ラヴィではどのように過ごしていますか？

A ケールではシール貼りや箱折りをやっています。ラヴィではお風呂や散歩、ご飯が美味しくていいです。

元気でやっています！
みんなも頑張ってください！



研修報告

ラップ WRAP2日間集中セミナー in 山梨

2019年1月19日、20日の2日間、ラヴィにてWRAP 2日間集中セミナーが開催されました。WRAP(元気回復行動プラン)とは人生のハンドルは自分で握り、日々の暮らしの中で「いい感じの自分」でいるために、また「こうでありたい」と思う人生を創り出すために自分自身でデザインするプランです。

あゆみの家ではファシリテーターをお招きし、3年前からWRAPをプログラムに取り入れています。

ファシリテーター(りえちんとこがちゃん)に来ていただき、WRAPを集中して学びました。県外からも多くの方が参加してくださり、「いい感じの自分」を知り、元気に役立つ道具箱を見つけ、みんなで共有しました。WRAPセミナー経験者も多く、マイプランの見直しや新しいプランにした方もいました。医療だけに頼らない対処法を持つことで、リカバリーが更に進んでいくと思っています。



地域における相談支援体制の在り方を考える ～上小圏域障害者総合支援センターを視察して～

平成31年3月27日(水)～28日(木)に長野県上小圏域障害者総合支援センター(以下、上小センター)を鴨作、鹿山で視察してきました。上小圏域は長野県の東部に位置し、2市1町1村(人口約19万うち上田市が15万)で構成しています。

今回の視察の目的は、市町における基幹相談支援センターの在り方を学び、基幹相談支援センターの地域創りの具体的なアクションについてイメージを持つことです。

2日間を通して、地域の相談支援体制を確立するためには、市町村との合意形成を行い、相談支援専門員の継続的な配置が必要なセンターを行政からも民間からも中立的な立ち位置で創ることが必要だと感じました。その土台を作ったうえで、地域生活支援拠点等を含めた地域福祉課題や、人材育成に取り組む必要があると思いました。上小センターは、立ち上げと同時にセンターとして新たな組織を立ち上げ、そこに集う相談支援専門員はほぼ皆プロパーとして、元所属を一度退職し上小センターに所属しています。地域に根付かせるセンターを創るにはそのくらいの「覚悟」が必要なかもしれませんし、それだけ魅力あるセンターなのだと痛感しました。

歴史上山梨と長野は、武田氏と真田氏という深い結びつきがあります。上小代表の橋爪さんから「非常に縁の深いところでお互い繋がり合って高め合いましょう」と送り出していただきました。ありがとうございました。



共生を目指して

障害がある人もない人も共に生きる当たり前の社会を目指して、毎回精神保健福祉に関するトピックを取り上げていきたいと思っています。

リカバリー (recovery)とは、英語で「回復」を意味する単語です。精神保健福祉分野では、精神疾患を持つ当事者が、病気や障害による様々な苦勞を自ら乗り越えて、自己実現や生き方を主体的に追及するプロセスのことです。

リカバリーの概念は1990年代に米国で生まれました。21世紀になってからは欧米を中心に徐々に広まりを見せ、2010年代ではリカバリームーブメントとして、精神障害者支援における国際的な潮流となっています。

リカバリーは、その人一人ひとりの、かけがえのない経験の道程です。自らの病気や障害の体験を受け入れ、それらを成長させるために、体験の活用が大切になってきます。病気になったことを受け入れたうえで、新しい自分の生き方を考えていくと同時に、未来に向かって前向きに生きる姿勢が大切なのです。その一人ひとりのかけがえのない貴重な体験を記したものをリカバリストーリーといいます。

私たち、社会福祉法人蒼溪会では、毎年、山梨県立大学の看護学部の授業、甲府共立看護高等学院の授業に、利用者の方とご家族、スタッフでお話をさせて頂いています。また、山梨県内の精神障害者のリカバリーストーリーを発表するイベントにも積極的に参加しています。

リカバリストーリーを記すことで、自己認識や自己理解、自己肯定感が深まるだけでなく、体験の発表等を通じて、同じような体験をした仲間のリカバリーになることや、社会のスティグマ(偏見)の除去になり、社会貢献にもつながっています。

最後に、心理学博士であり、自らも統合失調症当事者である、パトリシア・ディーガンの言葉です。「リカバリーは旅(過程)であり、生き方であり、構えであり、日々の挑戦の仕方です。平坦な一本調子の直線的な旅(過程)ではありません。ときには道は不安定となり、つまずき、旅の途中で止まってしまうこともあります。けれど、気を取り

直してもう一度はじめることもできるのです。この旅で必要とされるのは、障害への挑戦を体験する事です。障害による制限の中、あるいはそれを超えて、健全さと意思という新しく貴重な感覚を再構築することなのです。リカバリーの旅で求めていることは、地域の中で普通に暮らし、働き、愛し、そこで自分が重要な貢献をすることなのです。」



ノリさんのつぶやき



「1 + 1 = 2」これは学校で教えてくれる足し算の答えです。福祉の仕事、とりわけ対人サービスの仕事をしていると、「1 + 1 = ∞」に感じる事が多々あります。

長い入院を経て地域生活を目指す人、進学や一般就労へ一步を踏み出した人、そこにはその人の人生や生活にかけがえのない物語が紡がれていきます。人と人が出逢い、語ることで、予想できない可能性が広がることも経験してきました。つまり「1 + 1」にあるのは、“答え”ではなく“応え”なんですね。その人の可能性を広げられるだけの力が蒼溪会には必要ですし、私自身が日々試されていると感じています。

理事長 有野哲章

4月末現在 登録人数

就労支援事業所	定員	人数
ケール		
就労継続支援B型	20	27
就労支援センターサヴァ		
就労継続支援B型	20	31

グループホーム	定員	人数
グループホーム(5ヶ所)	36	36
サテライト	7	5

ライフサポート ラヴィ	定員	人数
生活介護・通所介護	20	28

自立訓練	定員	人数
山梨県立あゆみの家		
宿泊	20	18
通所	22	19
訪問	-	5
短期	2	1

相談支援センターカマラド	件数
計画相談	233
地域移行	3
地域定着	15
自立生活援助	7

担当

有野哲章、渡邊充恵、渡辺かおる、大木和美、森元尚紀
斉藤真由美、中村由佳里、深澤亜衣

問合せ

社会福祉法人 蒼溪会 相談支援センターカマラド
住所：南アルプス市有野3243-1
電話：055-269-5671
Eメールアドレス：kamarado@nus.ne.jp
担当：中村